

# うさぎとかめ通信

# 上越市立高田幼稚園

(週刊：園長室だより) 106周年

令和4年12月22日 第168号

HPのQRコード→

「思い→体験→表現」は、幼児・児童・生徒に一貫する、遊び・学びの基本!



【発表会をYoutubeでライブ限定配信しました。箕田情報指導員さん、高橋先生、ありがとうございました。】

## 子どもの姿から

【まつ組のステージ看板です】→

16日(金)の発表会へのご参加ご協力に感謝します。

オープニングの全園児の歌「北風小僧のかんたろう」は冬の季節感、「クリスマスのうたがきこえてくるよ」は楽しいイベント感が出ていました。

まつ組の発表です。バラエティ「はじまるよ!まつぐみちゃんねる」は、自分の得意なことをテレビ番組風に演出して発表しました。創作劇「アーニャをさがせ!」は、漫画『SPY×FAMILY』をもとに、いろいろな人物との掛け合いが楽しかったです。これまでのミッション遊びも生かしました。合奏・歌「きらきら星」「世界中の子どもたちが」「こころのねっこ」は、上手にできて楽しく、そして卒園も少し感じました。



【うめ組の劇の箱絵です】→

うめ組の発表です。遊戯「ミート・ザ・ワールド」は、フラフープで跳んだりリボンを回したりして、まるで新体操の演技のようでした。劇ごっこ「うめぐみのぐりとぐら」は、中川李枝子・山脇百合子による絵本の野ねずみをもとに、オリジナルの楽しいストーリーとなっていて、セルフの箱絵の舞台転換も見事でした。調理場面も出てきて、秋のぐりとぐらの「おはなしランチ」を思い出しました。



もも組の発表です。劇遊び「おばけやしき」には、もも組のメインキャラクターのおばけがたくさん出てきました。オリジナルな民話劇の中で、子どもたちが思いっきりおばけを楽しんでいました。遊戯「たこやきマントマン」は、高田ひろお・中村泰敏による絵本・アニメをもとにして、南の島を舞台にリズムカルに展開されました。「かわいいパワー」が炸裂していました。

## キーワード

【もも組の劇の衣装です】→

### ○幼児の劇遊び

高田幼稚園の劇遊びは、子どもの興味・関心、思いや願いに基づき、オリジナルなストーリーとなっています。

『劇遊びの演目を設定する際には、子どもの興味、保育者の教育方針、園の期待の3者の立場から接点を見つけるが、特に保育者が潜在している子どもの興味や関心の対象を発見し、単なる興味や関心のレベルではなく、それを表現したいという欲求にまで育てていくことが重要である。練習においては、視聴覚教材によるイメージづくり、自由で主体的なリズム遊び(ダンス)を通しての選曲や配役、相互に見学して意見を述べ合うことでの修正、背景の制作や衣装着用によるイメージの共有化と構築、保護者の参観による臨場感など、状況に合わせて活用していくことになる。本番に当たっては、今までの努力を振り返り、自分たちは「できる」という実感を持たせることが必要である。発表後は成果を共有して、その後の活動への自信につなげることが大切である。劇遊びの効果は、自己表現、協同性・協力性において顕著に示された。』

(引用：金子智栄子、櫻井ひとみ、金子智昭、金子功一「幼児の自由な表現を尊重した劇遊びの実践的研究」文教学院大学人間学部研究紀要」平成28年)

